

けんぱくものしりシート

わらび てとう 蕨 手 刀



わらびてとう
蕨手刀

もりおかしおたえぞもりこふんぐんしゆつど こじんぞう
盛岡市太田蝦夷森古墳群出土 (個人蔵)



わらびてとう
蕨手刀

きたかみしながぬまこふんぐんしゆつど ふくせい げんしりょう きたかみしきょういくいんかいぞう
北上市長沼古墳群出土 [複製] (原資料: 北上市教育委員会蔵)



ハクちゃん

「なんだか不思議な名前、不思議な形をしているなあ…。これは何？」



解説員

「あら、ハクちゃん、いいものに注目しましたね！これは『蕨手刀』と呼ばれている、鉄でできた刀です。今日はこの『蕨手刀』のことを知っていきましょう！」

なぜ「蕨手刀」という名前なの？

つかもてぶぶんが、さんさいのわらびの若芽の形に似ていることから「蕨手刀」と呼ばれています。最初にこう呼んだのは、まつらたけしろうの松浦武四郎さんという人です。一方で、柄の部分が真っすぐになっているものは「直刀」と呼ばれています。



ちよくとう
直刀

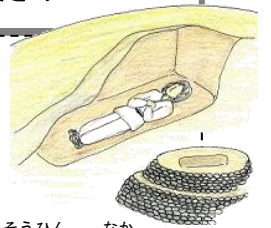
きたかみしえづりこふんぐんしゆつど きたかみしきょういくいんかいぞう
北上市江釣子古墳群出土 (北上市教育委員会蔵)

ほんとう
本当だ！
こっちはまっすぐだね



どのような状態で見つかったの？

ひつぎなかこふんはか
棺の中、古墳やお墓の副葬品 (お墓に埋葬する人と一緒に埋めるもの)



として見つかりました。副葬品の中には、きれいな※勾玉や冑などもあります。蕨手刀をはじめ様々な副葬品が見つかる、ということは古墳を作る権力があつたことの証拠なのです。副葬品にはその人が生きていた時の様子の一部を知ることができるという大きな意味があるんです！ (※けんぱくものしりシート考古No. 4「勾玉」をみてね)



いつ?どこからきたの?

“蕨手刀が生まれた場所”としては長野県から群馬県の辺りの地域と考えられています。7世紀末以降、この地域で古い形の蕨手刀が見つかっていきます。その後、8世紀前半以降、東北地方に広がり、特に宮城県や岩手県でたくさん見つかっています。



実際に刀として使っていたの?



これには主に2つの説があります。
 ①単なる副葬品だった(=刀としては使われていなかった可能性がある)。
 ②実際に刀として使っていた。形の変化から、最初は「突く」役割、次に「切る」役割へ変化したと考えられています。



見つけた数はどのくらい?

日本全国で約300点見つかっています。場所は北海道・東北地方が多く、特に岩手県からの出土が約80点と一番多いのです。

【蕨手刀出土分布図】

見つけた場所を点で示しています。



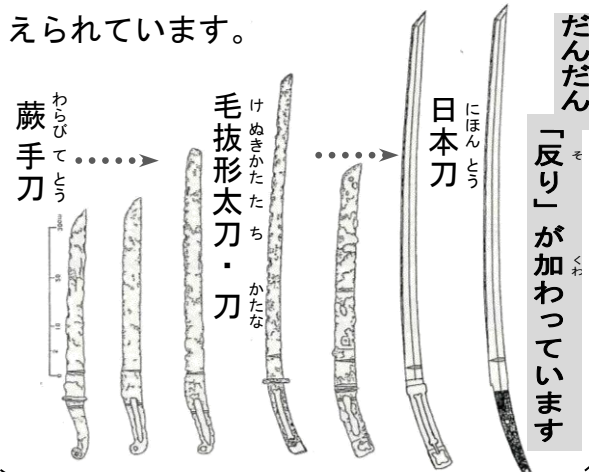
岩手県で一番多く見つかっているね!

そう!岩手には、むかしの様子がわかる宝物がたくさんあるのよ。

ハクちゃん、次はどんな宝物に注目するかな?展示室を探検してね。

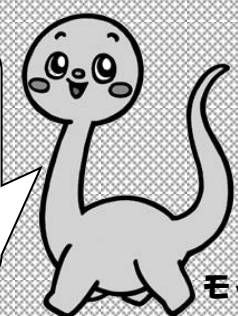
え!形も変わっていったの?

そうなのよ。刃の部分に注目してね。「突く」時は真っすぐでいいけど「切る」ためには、少し曲がっているほうが切りやすいわよね。この曲がりのことを「反り」といいます。この反った蕨手刀(毛抜形太刀)が今の日本刀の原型だと考えられています。



参考 『岩手考古学会第46回研究大会 北三陸の蝦夷・蕨手刀』 岩手考古学会 2014年/
 『北の鉄文化』 岩手県立博物館 1990年/ 『いわて未来への遺産 遺跡は語る 旧石器〜古墳時代』 岩手日報社 2000年 他

来月(3月)の
 けんぱくものしりシートは
 歴史-No.16だよ!
 おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
 http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/